

# 令和4年度 勝連こども園の自己評価

達成状況 A 良好 B おおむね良好 C やや改善 D 要改善

保育理念	生きる力・強い心を持つ子どもを地域と共に育てる
保育・教育目標	* じょうぶな子ども * 明るい子ども * 元気な子ども * 考える子ども
本年度重点目標	・子ども、保護者との信頼関係づくりに努め安心できる園づくりに努める ・地域の実態把握や働きかけを積極的に行い地域に愛し、愛され地域に根差したこども園を目指す

領域	評価の視点	評価の項目	達成状況(%)			
			A	B	C	D
保育の計画	全体的計画の編成	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、ねらい、内容を生活に取り入れた編成	36	55	9	0
	指導計画の作成と展開	長期・短期計画の作成	36	47	17	0
		生活の連続性・子どもの姿を考慮				
	発達過程に応じた保育	3歳以上児への協同的な活動の促し	38	46	16	0
	特別支援保育の対応	支援計画の位置づけ	50	33	17	0
		家庭、専門機関、関係機関との連携を密にしながら保護者との相互理解を図り適切な環境の下で保育の充実を図る	50	50	0	0
	関連機関との連携	関係校区小学校との連携	17	62	21	0
		地域との連携	17	45	38	0
	行事について	ねらいに沿った計画を行い計画・実践・評価・改善に努めている	32	64	4	0
		保護者の願いや意見を取り入れた設定をおこなう	43	57	0	0

## 今年度の状況

- ・保育教諭一人ひとりの教育・保育の質の向上のため、園内外研修等に参加し自らが学び、学んだことを園内で報告したが、情報を共有するだけにとどまり、日々の保育に活かされないことがあった。〈改善策〉
- ・知識を共有するだけにとどまらず日々の保育に活かせるよう職員一人ひとりが高い意識をもつとともに、研修に参加した職員が学んできたことを積極的に情報発信していく。
- ・園内で教育・保育を見合い、学び合う機会を設定することにより教育・保育の質の向上を目指す。
- ・保護者とのコミュニケーションを密にし、いつでも相談に対応できるような体制にする。
- ・園だより、玄関掲示、LINEを有効活用し、迅速に対応していく。
- ・保護者への情報発信が遅くなり、園児の困り感に対応しきれない事や園の方針と保護者の思いの食い違いが生じていることが課題となった。〈改善策〉
- ・普段から、保護者との信頼関係づくりに努め保護者寄り添う。アンケート実施や意見箱の設置を行い、保護者の意見を参考に改善に努めている。

健康及び安全	子どもの健康支援	健康状態の把握と疾病等への対応	57	43	0	0
	環境及び衛生管理・安全管理及び業務の改善	整備用具などの衛生管理	60	39	1	0
		安全点検・避難訓練等の実施				
	食育の推進	食育計画の作成と実践	0	67	33	0
アレルギーなどへの対応		100	0	0	0	
<b>今年度の状況</b> ・災害や感染症については朝礼や職員会議を活用し、情報や園としての対応の共有を行っているが、職員一人ひとりの意識の違いや対応の違いが見られることがあった。 「命を守る」事を最優先に考え、意識を高めていく必要がある。今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症が流行していたため、本園、へしきや・かなさこども園と話し合いを設け、マニュアルの作成や保護者の方への情報提供を行った。〈改善策〉 ・担当の職員だけでなく、職員全体で子ども達の安心と安全のために様々な状況を常に想定し、対応できるようにしておく。						

開かれた園づくり	地域社会との連携	地域力を保育に活かし、子ども達が豊かな生活体験、感動体験ができるように展開し「地域と共に」取り組んでいく	14	54	32	0
		地域の行事に積極的に参加し地域の文化や生活に触れている	21	29	50	0
	情報の発信・取り扱い	園だより・ドキュメンテーションを利用し、施設の情報発信している	46	46	8	0
		行事や子育て支援事業等を地域連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか	7	64	29	0
	子育て支援の推進	地域の子育て支援として園庭や保育室の解放を行っている	0	36	64	0
		保護者や地域ニーズに応えるサービス提供組織として、保護者や地域の多様なニーズに対応している	12	43	38	7

### 今年度の状況

- ・地域交流計画を行うが、新型コロナの影響により交流の機会が減る。次年度も地域資源を十分に活用しながら、地域交流を行い地域と共に育てる環境づくりを目指す。
- ・子育て支援では、室内外の相次ぐ工事やコロナ禍により安全面の観点から、地域子育て支援実施を行うことができなかった。近隣との連携を取り地域の実態把握に努める。今後は勝連こども園を地域に配信し周知に努め、実行できるよう計画していく。

職員の資質向上	施設長の責務	法令順守・職員指導・研修への促し
	自己研鑽	研修等への積極的な参加
	目標管理	1年間の目標と設定と振り返り

### 今年度の状況

#### (1)職員の意識改革

業務を担当者任せになってしまう傾向がある。担当者が責任をもって行うことはもちろんのことだが、園の業務を遂行するために、全ての職員が積極的に関わり、見通しをもって職務に取り組むことが重要となる。また、職員の良い所を認め、コミュニケーションを図りながら共に成長していきたい。

## (2) 保護者との関わり

保護者との信頼関係を築くためには、丁寧かつ迅速な対応の積み重ねが重要であり、保護者から発信されたことは、一つひとつ誠心誠意受け止めていくことが大切である。保護者への対応は職員間で共通理解をし、園全体が連携して子どもに向き合い教育・保育に取り組むことにより、園の理念や方針が伝わるように意識をもっていく。また、保護者の思いや考えを客観的にとらえるため、関係者評価を継続していく。

## (3) 施設整備の安全点検

担当者だけではなく、職員が意識をもって定期的に点検をし、的確に修繕することができた。園内外で起こる事故やケガに関しては、危機管理マニュアルを遵守し、保育教諭の配置等を工夫し、けが事故防止に一層努めていくことが必要であり、職員間で情報の共有、申し送りの徹底により、再発防止をしていく。

## まとめと今後の展望

・ 職員の意識改革と園の教育・保育の質の向上を目指し、現状に満足せず、職員一人ひとりが自ら学ぶ姿勢を持ち続けて行くことが大切である。PDCA サイクルが少しずつではあるが定着してきたようなので、今後も働きかけていきたい。また、園の理念や方針の基本をかした対応をし、全職員が同じ方向をむいて子ども達に向き合い、健やかな成長を見守っていきたい。

今後は地域に根ざしたこども園となるべく、子育て支援の充実のため園児・保護者の皆様はもちろん、地域の子育て世代の方々にも様々な働きかけができるような取り組みをしていきたいと考えている。